

作物名 **甘藷(サツマイモ)** (ヒルガオ科)

J A 2022 版

標準作型

△印・植付け □印・収穫

作 型	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
露 地 マルチ					△-----△				□			

栽培のポイント

酸性土壌でも良く育ち、栽培しやすい作物。窒素肥料が効き過ぎないようにする事が重要である。

品 種
高系 14 号：早掘用。黒斑病、ネコブセンチュウに弱い。
ベニアズマ：早掘用。貯蔵性が悪い。
べにまさり：良食味。ネコブセンチュウ虫にやや弱い。

畑の準備
前作の前、又は 1 ヶ月以上前に完熟堆肥 (100kg/a) を入れる (作付け直前の堆肥は避ける)。
ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウなどの土壌病害虫を回避するため、連作を避け、発生の恐れがあるほ場では土壌消毒を行う。

元 肥 (1 a 当たり使用量)

甘藷配合 1 号	10 kg	植付け前
----------	-------	------

元肥の量は、前作によって調整する。
(キャベツやハクサイの栽培後は元肥の量をやや少なくする)
普通の畑では追肥の必要はない。

植付け
5 月中下旬頃が適期 (マルチ栽培の場合は 10 日程度早く植付けできる)。
苗の挿し方は、斜め挿しや船底挿しがよい (マルチ栽培は斜め挿しの方が挿しやすい)。
苗基部の浸漬消毒をしておくとし黒斑病対策になる。
※うね間 70~80 ㌘、株間 30~35 ㌘。 植付け本数の目安：330 本/a
(植付けは、深さ 3~5 ㌘で 3 節以上土中に入れて上から土を抑えておく)
発根した苗を使用すると、ツルボケの原因となる。
※一人前の葉 3 枚くらいつけて切り、これを一度しおらせる。つぎに根元を水で湿らせて、採りおきをしてから植付ける。これは苗が親から離れたことを認識し、発根の準備を始めていくためである。植付けるとすぐに発根して活着がよい。

病虫害防除
生育期間中の病虫害の発生は比較的少ないが、病害としては立枯病、黒斑病など害虫としてはイモコガ、コガネムシ類、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウなどの被害があるので、発生予察に注意して防除する。

つるの処理
つるが伸びすぎて隣のうねの邪魔になるようなら、つるの先端をカマで適時刈り取っておいても良い。ベニアズマなど最近の品種は、つる返ししなくて良い。

収 穫
10 月下旬~11 月上旬 (霜の降りないうちに) 収穫する。